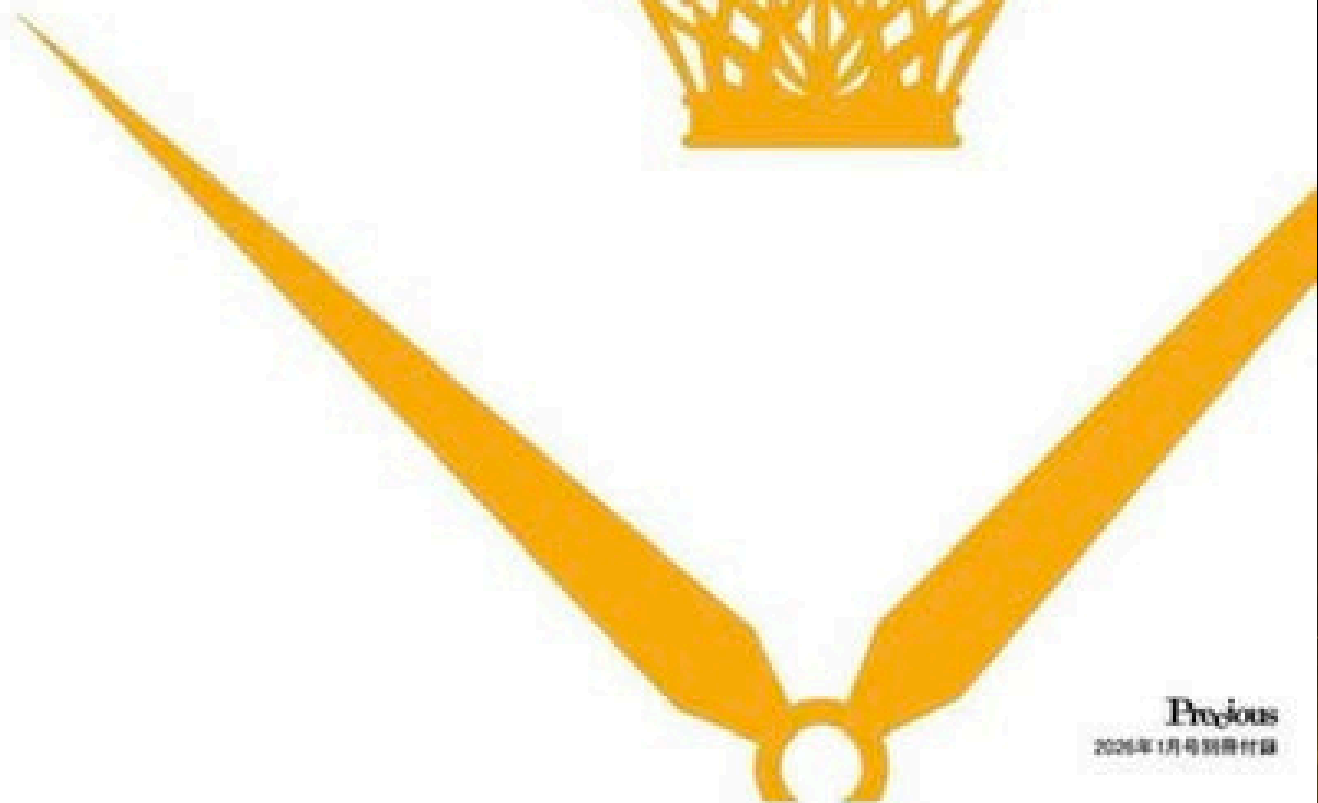


プレシヤス
Precious

WATCH AWARD BOOK 2025

「美しさを纏う」という
意志を刻む

第8回となる「時計の祭典」を、
「MENS Precious」とコラボし今年も開催。
新作ラグジュアリーウォッチのなかから
専門家や識者が審査し、各部門の受賞作を決定しました。
レディースとメンズの各部門で選ばれた
2025年を代表する名作ウォッチをここに堪能あれ。



Precious
2024年1月号別冊付録

プレシヤス Precious

WATCH AWARD 2025

並木浩一さん ●朝日横浜大学教授・時計ジャーナリスト

多様性の時代に、美の基準は自由へ
時計は、表現の核心へと近づいている

今年の時計界を見渡すと、多様性が確かな基盤として定着している。それは単なるスタイルの拡張ではなく、美しさの再定義という動きに表れています。これまで芸術的と見なされた表現が、今は感性とデザインのバランスとして受け止められる。時計は時間を示す道具を超えて、造形としての完成度そのものが価値をもつ存在に。レトロフューチャーと現代性がせめぎ合うなかで、美の探求はますます自由に、知的に進化しています。

Q. 時計の魅力って？ つけると、心が少し強くなる気がします。 Q. 時計の最初の記憶は？ 数年前で買った10万の「おもちゃ時計」。 Q. 最初に購入した時計は？ 「オメガのバグ・ヴィル」。自分の生まれ年でもある1961年製。 Q. 最近、使用中の時計は？ 「TWC」の「インデュニア」。

本間恵子さん ●ウォッチ&ジュエリー ジャーナリスト

装飾が進化と共に深まる、個性の表現
手仕事が紡ぐ意匠に、つくり手の精神が宿る

ここ数年、時計の世界では装飾そのものが目覚ましい進化を遂げています。ダイヤルやベゼル、ブレスレットにいたるまで、時計を美しく飾るという発想がより豊かで多様になりました。ただ宝石を配するだけでなく、彫金やエナメル、伝統工芸など、ブランドごとに異なる手仕事の技が生かされています。機能性の追求から、つくり手の個性を映し出す表現へ。歴史やアイデンティティと結びついた装飾の発想に、改めて驚かされた一年でした。

Q. 最初に購入した時計は？ 米国製アンティーク。 Q. 忘れられないエピソードは？ 1990年代に撮影した「オーダマ ビダ」のジュエリーウォッチ。風鈴が動くスライスされたトルマリンでした。 Q. 好きな色・素材・装飾は？ 毎日、少しずつ変わる月の表情が楽しめるムーンフェイス。

立野リカさん ●モデル(本誌専属)

いきいきと動く美を、手元で感じる
時と感情が響き合う瞬間に寄り添って

写真で見ると、実際につけるのとでは世界が違う。腕にのせた瞬間、金属の温度や重み、光の揺らぎが呼吸を始める。時計が「生きている」ことを実感します。スポーティなモデルは心を軽くし、ドレスウォッチは姿勢を正してくれる。時計は、着る人の感情を変える力を秘めています。受賞モデルをつけて感じたのは、デザインを超え、その瞬間の自分に寄り添うかどうかです。美しさとは、機能の先にある「気分」のことだと思います。

Q. 時計の最初の記憶は？ 子供の頃からデニスをしていて、慣れの選手が時計をつけてトロフィーを掲げる姿に心奪われました。 Q. 最近、使用中の時計は？ 「ロレックス」の「デイトジャスト」。 Q. 欲しい時計は？ 「TWC」の「インデュニア」や、「ジャガー・ルクルト」の「レベリッツ」。

各界のプロフェッショナル5名が語る

2025年の 新作ラグジュアリー ウォッチ総括!

エントリーされたたくさんの新作時計を対象に、5名の審査員が、各自の専門領域で磨いた感性を発揮。多角的な視点で評価を行い、議論を重ねました。審査を通じて浮かび上がった、時計界の「今」を伝えます。

中野香織さん ●服飾作家・著作家

技術と装飾が交わり、思想が形となる時代
物語を宿す時計が、感性を磨き続けている

技術革新や豪華な装飾の観念を超え、伝統や素材、物語や精神性が豊かに絡み合う時代を迎えています。時計はもはや機能的な道具ではなく、思想や個性、感性を映し出す詩的な対象となっている。職人のクラフマンシップとブランドの哲学が一体となり、時間を超えて共鳴する「文化の結晶」として存在感を高めました。そこには、実用と美の境界を軽やかに越えて、多様な美意識が響き合う新しいラグジュアリーの地平が広がっています。

Q. 時計の魅力って？ 技術や美意識、物語を宿るところ。 Q. 時計の最初の記憶は？ 祖母が愛用していた小さなゴールドの手巻き時計。 Q. 最近、使用中の時計は？ 「ブランドセイコー」の時計。 Q. 好きな色・素材・装飾は？ 文の装束で、表情が変わるような素材の文字盤が好き。

伊藤美佐季さん ●スタイリスト・ジュエリーディレクター

装いに寄り添う時計が、感性を映し出し
しなやかで美しい生き方を形づけていく

時計は、その人の美意識を映すアクセサリー。どんな女性がつけるか、どんな服と響き合うか。それによって時計の表情も変わり、印象も違って見える。現代においては、強さよりも自然体のしなやかさ、機能や格式よりも、心地よさや品格が伝わる時計が求められていると感じます。時を知るためではなく、「時を纏う」感覚を大切にする女性が増えています。装いの一部として、自分らしい生き方を語る。それも、時計のあり方だと思っています。

Q. 最近、使用中の時計は？ 「カルティエ」の「パンチール ドゥ カルティエ」。大好きで、ずっと愛用中。 Q. 好きな色・素材・装飾は？ ピンクゴールド。肌なじみよし、ジュエリーとも好相性。 Q. 欲しい時計は？ 「ピアジェ」の「エクストリームリールレディ」、通称「ジャッキー」ウォッチ。

名品ウォッチ賞

しなやかに、力を秘めて
理性と野性が共鳴する、エレガンスの現在形

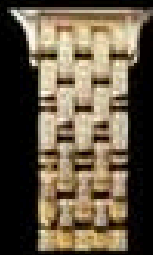
カルティエ。

「バンテール ドゥ カルティエ」

ケースとブレスレットに、ブリリアントカットのダイヤモンドを群衆的にあしらひ、光が溢れるような表情を醸す名品。調の輝めさを思わせる輝きが、ジュエリーとしての質品を際立たせて。シルバーダイヤルが穏やかな面白さをつくり、透射の真に宿る華やかさがメゾンの美学を今に伝える。「バンテール ドゥ カルティエ」 ¥1,458,000 ●ケース：YG×DIA ●ケースサイズ：縦30.3×横22mm ●ブレスレット：YG×DIA ●クォーツ(カルティエ)



「野性の力を理性で磨き上げた造形美。しなやかさと気高さを併せもつ、その姿に「カルティエ」の女性像が重なる」——中野青嵐



リンクひとつひとつに丁寧に埋め込まれた44個のブリリアントカットダイヤモンドが、溢れるような光の海を醸す。調の輝めさがその輝きを受け止め、手首の動きに呼応して穏やかな表情を生む。透射は調造美として機能し、ジュエリーとしての完成度を物語る。

優

「優」とは強さを同時に備う。カルティエの「バンテール ドゥ カルティエ」ブレスレットには光が溢れるように流れ、動物の息づかいのような生命感が描かれています。「タイニーでゴージャス。その小ささのなかに、やりすぎない上品さがある。ダイヤモンドをあえて表まで敷き詰めた、「狭く、構造、抑調が美学の核であり、完成された名品としての矜持を誇ります」(「栗木さん」)

「バンテール」的、の名にふさわしく、しなやかさと力強さ、知性と品格が同居している。野性を理性で包む造形は、メゾンが体現してきた普遍的な女性像そのもの(「中野さん」)

「ブレスレットがより柔らかく進化し、肌へのなじみもいっそう自然に。長年の改良がクラシックに新たな軽やかさを与えています」(「本間さん」)

伊藤さんは、自身も愛用者として「時計というよりジュエリーのような存在」と語ります。黒のタートルや白シャツに合わせると、フレンチモードの香りが漂うという、立野さんも、「イブニングにもデニムにも寄り添う多面的な魅力がある」と言及。この時計は、メゾンが時代ごとに問い続けてきた「エレガンスの定義」を今に語り継ぐ存在なのです。

38mm径のPGケースに、永久カレンダーを駆動した新開発ムーブメント、キャリバー7138を搭載。リュウズひとつで全操作が可能な構造を採用し、複雑機構をより直感的に操作することができる。洗練的なケースフォルムに、バージェのグラウンドタペストリーダイヤルが美しく調和する。「ロイヤル オーク パーベチュアルカレンダー」価格要問い合わせ ●ケース:PG ●ケース径:38mm ●ブレスレット:PG ●自動巻機(オーデマ ピゲ ジャパン)

アイコンウォッチ賞

リュウズひとつで、時を操る
知性が宿る、現代のコンプリケーション

「オーデマ ピゲ」
「ロイヤル オーク
パーベチュアルカレンダー」

「複雑機構をエレガンスへと昇華させる
構造の革新。そのなかに、女性の知性と意志が宿り、
美と理性の均衡が新しい時代を開く。」—— 栗本浩二



ケースバック越しに見えるのは、新開発キャリバー7138の精緻な自動機。PG製のローターにはブランド名の頭文字「AP」が内蔵される。立体構造を細く、彫刻りやコート・ド・ジュネーブなどの丁寧な仕上げが、マニファクチュールの美しさと誇りを語りかける。

凛

とした造形に、確かな意志が宿る。「オーデマピゲ」の「ロイヤル オーク パーベチュアルカレンダー」は、リュウズひとつですべての操作を可能にした画期的な構造を備え、伝統の技と現代の感性をひとつに結んだ革新的なモデルです。

「38mm径に永久カレンダーを搭載したのは本当にすごい。これまで男性的とされた機構を小さく、薄く、エレガントに仕上げた設計は、まさに女性のためのコンプリケーションウォッチだと思います。」(栗本浩二)

「八角形のケースには建築的な力強さと美しさがある。赤みを帯びたトーンが肌になじみ溶け込み、スポーティでありながら知的なエレガンスを感じます。性別を超えた普遍的な魅力がありますね。」(中野さん)

「ピンクゴールドの「威み」が、戦う女性を鼓舞するよう。リュウズだけで完結する機構は、構造的にも極めて洗練されています。」(本間さん)

立野さんは、「実に繊細な装飾はいりません。この一本でスタイルが完成する」と語ってくれました。「複雑機構と快適さ、存在感と軽やかさ」。そのすべてを調和させたこの時計は、現代の女性の強さと知性を映すシンボルといえるでしょう。

軽

やかさのなかに漂う、時代を
超える空間。「ピアジェ」の「シ
ックスティ」は、1960年代のア
バンギャルドな精神を現代の感性で
再解釈して生まれた、メゾンのまっ
たく新しいコレクションです。

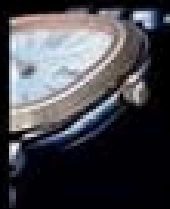
「60年代という時代の香りが伝わっ
てきます。60」という数字にも、
時の循環や新しい時代の始まりを象
徴する響きがあり、ネーミングも素
晴らしい、幾何学的でありながら、
レトロかつモダン。未来の懐かし
さ、を映す時計ですね」（中野さん）
「印象的なのは、台形のような独特
のケースフォルムと、フリルよう
なデザインのアレスレット。レトロ
ななかに女性らしい可愛らしさがあ
って惹かれます。ピンクゴールド×
ステンレススチールのコンビ仕様
なので、どんなジュエリーにも合わ
せやすい点も魅力です」（本間さん）
「例えば、ネクタイやシャツなどメ
ンズライクな装いに合わせると、こ
の時計のフォルムの可愛さが際立ち
ます。「スタイルの自由」を表現で
きる時計だと思います」（伊藤さん）
クラシックなモードの地を往來
し、そのバランスのなかで生まれた
この時計は、日常に洗練を添える、
ラグジュアリーの新らしい形なのです。

デイリーラグジュアリーウォッチ賞

懐かしさのなかに、新しさがある
往日のプラン・ニュー・コレクション

ピアジェ。 「シックスティ」

「60」という数字が示すのは、時の循環と
新しい時代の始まり。唯一無二の造形に、
未来への軽やかな予感を感じます」——中野香織



ベゼルをぐるりと囲むゴド
ロン溝が、光を受けて輝
きを随分と添える。FGとSS
のなめらかな面が掛け合い、
流らかな曲線に深みを感じ
る。繊細な線がリズムを
作り、見る角度で表情を変
える造形。クラシックな意
匠を現代の造形に昇華させ、
品格と洗練を添えている。

1960年代の自由な発想や大胆な感性も今に映
した新コレクション。トラペーズ形のケース
をゴドロン溝で囲み、光の差れを柔らかく
映す。FGとSSのコンビネーションで彫られ
たアレスレットが、肌に着き心地、日常に洗
練を添える。時を飾るジュエリーとして、自
由で現代的なエレガンスを体現する一本。【シ
ックスティ】 ¥1,980,000 ●ケース：FG×SS
●ケースサイズ：縦25.3×横29mm ●アレス
レット：FG×SS ●クォーツ（ピアジェ）

漆

芸術家・浅井康宏氏の手によるダイヤルに、ローマの美学と日本の職人技が響き合い、唯一無二の世界観を描く。「ブルガリ」の「ルチェア ノッテ デ ルーチェ」。漆の深い黒に、蝶翼の欠片が星河のような光を描き、一枚一枚が手作業で生まれる幻想的な輝きを宿しています。「日本の漆や螺鈿の技法と、イタリアの光の思想や造形感覚が融合している。東洋と西洋の美意識が交差しており、まさに「英の融合芸術」として成立しています」（中野さん）

立野さんも、「ローマのラグジュアリー調と日本の繊細な感性が見事に調和している」と強調します。

「手仕事・ラグジュアリー」という時代の潮流のなかで、「ブルガリ」が漆芸とのコラボレーションを行うのは、ごく自然な展開。文字盤を絵画のキャンパスのようにとらえ、文化的な作品性を感じます」（本間さん）
「螺鈿や漆の技法を用いた、日本の職人技が、本当に素晴らしい。黒の調いに合わせて、その存在感を素直にみたい。まさに、身につける芸術」という言葉が似合います（伊藤さん）
伝統と革新。その交差点に生まれたこの時計は、文化を纏う、クラフツマンシップの未来を映す存在です。

クラフツマンシップ賞

異なる文化と手仕事が出会い、
時計はアートピースへと進化を遂げて

「ブルガリ」
「ルチェア ノッテ デ ルーチェ」



「手仕事は、文化をつなぐ言語。日本の伝統技術に、ローマの光が重なり、東西の美が見事に調和しています」——本間恵子

芸術家・浅井康宏氏による繊細なダイヤルに、ローマの美学が響くコラボレーションモデル。漆の深い黒に鮮やかな貝の薄片を螺鈿細工で敷らし、幻想的な美情を生む。PG×SSのケースにダイヤモンドを配したベゼルが輝きを添え、文化と技術、東洋と西洋の美が交差する。
【ルチェア ノッテ デ ルーチェ】 ¥13,490,000
【世界限定各40本】 ●ケース：PG×SS×DIA
●ケース径：33mm ●ブレスレット：PG×SS
●自動巻き（ブルガリ・ジャパン）

漆を螺鈿にも塗り重ね、研削が行われた漆黒の文字盤に、天然の貝からわずかに異なる色と輝きを放つ薄片を敷設し、一点一点手作業で配置。再び漆でも塗り込みを行い、磨き上げ、完成に約90日を要する。漆の奥に光が透み入り、角度により異なる輝きを放つ。



ダイヤモンドウォッチ賞

千の煌めきが、時を包み
光の精度が、真のラグジュアリーを語る

ハリー・ウィンストン。

「HW オーシャン・デイト
ムーンフェイス オートマティック 36mm」

計1057個、総計約25.8カラットのダイヤモンドを
贅沢に配した傑作。ケース、ブレスレット、
ダイヤルのすべてにバゲットカット・ダイヤ
モンドを敷き詰め、光の海を築く。36mm径の
FGケースにムーンフェイスを搭載し、隙め
きのなかに機械式の精度を宿す、「キング・オ
ブ・ダイヤモンド」の名にもふさわしい一歩。
[HW オーシャン・デイト ムーンフェイス オ
ートマティック 36mm] ¥90,552,000 [世界開
定10本、直営サロン限定販売] ●ケース：FG
×DIA ●ケース径：36mm ●ブレスレット：
FG×DIA ●自動巻機(ハリー・ウィンストン)



右ノ背面からは、ローターに20個のバゲ
ット・カットダイヤモンドを配した機械
式ムーブメントが姿を現す。左ノブレス
レットの真鍮までぎっしりと敷き詰めら
れた1057個のバゲットカット・ダイヤ
モンドが、どの角度からも光を放つ。ジュエ
ラーの矜持と時計師魂の輝が結晶する。

「光と時間が響き合えば、圧倒的な存在感。
千を超えるダイヤモンドの輝きに、
ジュエラーの情熱と品格が宿っています」—— 立野リカ

「ズゴールドのケースに千個
を超えるダイヤモンドを精緻
にセッティングした、ハリー・ウイ
ンストンの「HW オーシャン・
デイトムーンフェイスオートマテ
ィック 36mm」。ハイジュエリークラ
フトの極致といえる時計です。
「ブランドの名前自体が「ダイヤモ
ンド」と結びついています。その本
質を理解したうえで、その期待に正
面から応える姿勢を感じる。まさに
「正統派の解答」です」(栗本さん)
「まるで、「ダイヤモンドの海」のような輝
き。光そのものを身につける感覚で、
贅沢でありながら、危ういほどの美
しさが共存していますね(立野さん)。
「放射状に配置されたバゲットカッ
トの精度、原石の質とその選定、セ
ッティングの緻密さ、どれをとって
も最高水準で、ブランドの矜持と崇
高な美意識を感じます」(栗本さん)
「これだけの輝きをつけこなせる
人こそ特別」とは、伊藤さんの言葉。
立野さんは、「これほどの数のダイ
ヤモンドを手作業で配し、光と時間
を芸術に昇華させた一本」と大絶賛
まさに、圧倒的な「光の建築」。そ
の存在は、ラグジュアリーという言
葉の意味を改めて定義し直す。「ハ
リー・ウィンストン」の真髄です。

34mmという小径サイズで登場した「1815」は、クラシックとモダンをひとつに結び、性を越えて手元を彩り通うタイムピース。ブルーダイヤルにレイルウェイ風の分目盛りとアラビア数字を配し、端正な3針の構成が静謐な印象を与える。厚さ6.4mmのケースには手巻きムーブメント、キャリバー「L1521」を搭載。【1815】各 ¥4,043,000 ●ケース：金/WG・白/PG ●ケース径：34mm ●ストラップ：アリゲーター ●手巻き (A.ランゲ&ゾーネ)

ジェンダーレスウォッチ賞

端正な時の流れが、知性を映す
時と性差を超える、新時代のクラシック

A.ランゲ&ゾーネ 「1815」



「深く澄んだブルーが、知性を映す。シンブルでありながら力強く、静かな美しさにブランドの美意識が表れています」——立野リカ



ケース裏から鑑賞できるムーブメント。その土台である深部製の4分の3プレートにはガラスシェッチェストライプの装飾が施され、ルビーの糸と青焼きピスが鮮やかな調和を醸す。テンプ受けには職人の手によるエングレービングが刻まれ、一点ごとに異なる表情をもつ。

よ けいな装飾を排し、静けさのなかに美を宿す。34mmというサイズで登場した、「A.ランゲ&ゾーネ」の「1815」は、携装美と実用性を兼ね備えた端正な姿が、ジェンダーを超えて知性を語ります。「1815」という数字は、創業者フェルディナント・アドルフ・ランゲの誕生年。折しも当時のヨーロッパは、稀代の酒造者ブランメルが活躍した。ダシアイズムの黄金期でもあります。装飾を削ぎ落とし、形式のなかに美を見いだす精神が育まれた時代です。本作には、その思想が現代の感性として受け継がれているように感じます」(中野さん)

「タイムレスなデザインと完璧なプロポーション。深い輝きを放つブルーダイヤルが、落ち着きと力強さの均衡を保っています」(立野さん)

「シンブルでありながら、知的で穏やかな印象を感じさせる。まさに「クワイエット・ラグジュアリー」の極みともいえる時計」(本間さん)

伊藤さんも、「白シャツに黒のパンツといった、クリーンでミニマルな装いにこそ、この時計の魅力が映える」と断言。理性と感性の均衡。それは、時代も性も超えて、静かに自信を語る「ドイツの本質美」です。

高耐性セラミックとYGを融合させた33mm径のモデル。バゲットカット・ダイヤモンド12個を配したインデックスと、バゲットパターンを施したサファイアクリスタルのベゼルが調しさを添える。COSC認定の自動巻きムーブメント、キャリバー 12.2を搭載し、約50時間の連続駆動を実現。「J12 キャリバー 12.2」各¥5,181,000 ●ケース：高耐性セラミック×YG ●ケース径：33mm ●ブレスレット：高耐性セラミック×YG ●自動巻き(シャネル)

ラグジュアリースポーツウォッチ賞

ゴールドを纏って進化を遂げる
確固たるスタイルをもつ名作ウォッチ

◆シャネル。

「J12 キャリバー 12.2」



「白と黒×ゴールド、その対比が生む無限の表情。モードとエレガンスを纏う時計は、スタイリングに合わせて印象を変えます」——伊藤英佐季



ケースの裏からのぞくのは、COSC認定を証明する高精度の自動巻きムーブメント、キャリバー 12.2。イエローゴールドカラーのローター中央に開けられた円孔は、「完全な円」を追求したメゾンの美学を象徴する意匠。軽やかなセラミックが光を受け、繊細の美を伝える。

高 耐性セラミックとイエローゴールドを組み合わせた「シャネル」の「J12 キャリバー 12.2」は、モードな感性と機能を結びつけた傑作。新作を発表するたびに、その存在感は成熟を増しています。

「さすが、セラミックという素材をラグジュアリーの高域に導入した先駆者。白と黒の対比、耐久性とエレガンスの両立は、まさに工学的な美学とデザインの間和です」(中野さん)

「この「J12」はバゲットパターンを施したサファイアクリスタルのベゼルも美しく、高耐性セラミックの美しさをしつかり引き立てている。素材を「宝石のように扱う」発想が素晴らしいと思います」(本間さん)

「黒とゴールドの組み合わせが、夜のムード」を感じさせて、スポーティさよりもドレッシーな華やかさがある。白いシャツやアニムに合わせても素敵だし、欲しいだけで印象が変わる時計ですよ」(伊藤さん)

「セラミックとゴールドの融合が、現代女性の、強さと美しさ」を表現していると思います」(立野さん)

「クリエイティブの継承と、素材革新の融合。その結実といえるこの時計は、感性と機構の両面で、時代のスタンダード」を証明しています。

ベアウォッチ賞

時間を解き放つ哲学的デザインが
自由をもたらし、ふたりの感性をつなぐ

フランク ミュラー、
「グランド カーベックス ピアノ」

曲線美を凝めたトノウケースに、20層のコー
ルドエナメルを塗って仕上げたジャパンレ
ッドが静やかに映える。インデックスを施した
文字盤は、時間にとられないというブランド
の哲学を象徴。光を受けるとびに深みを増す
赤が、心の自由と美の美学を語る。「グランド
カーベックス ピアノ」 女ノ ¥2,970,000 ●
ケース：YG×アルミニウム合金 ●ケースサ
イズ：縦44×横30mm 女ノ ¥4,510,000 ●ケー
ス：YG×DA ●ケースサイズ：縦44×横
30mm ●ストラップ：カーブメタパー ●自動
巻上(フランク ミュラー ウォッチランド東京)

「数字を廃した文字盤が時間の自由を語り、
エナメルの艶が、造形の美しさを際立たせる。
研ぎ澄まされた構造に、哲学が宿ります」—— 藤本清一



レディスモデルには、自動
巻きムーブメント、キャリ
バーFM9000を、メンズモ
デルにはFM300を搭載する。
パワーリザーブはそれぞれ
約36時間と約42時間。精緻
なムーブメントを包むケー
スバックはサファイアクリ
スタル仕様で、機構の美し
さをそのままに映す。



深

い。日本人レッドが印象的な、
「フランク ミュラー」の「グ
ランド カーベックス ピアノ」。数
字のない文字盤が、時間という束縛
からの解放——つまり、自分の時間
をどう生きるかを問いかけます。そ
んな哲学を宿す、ふたりの時計です。
「曲線のケースフォルムが本当に美
しい。厚巻りのコールドエナメルに
よって、柔らかな光沢と深みのある
艶感が生まれている」(藤本清一)
「タイムオンリー」——それは、
時刻を示すだけの機構です。このベ
アウォッチには、余分な機構を排除
し、時間の本質に立ち返る意気があ
る。シンプルながら洗練されていて、
まさに「静寂のなかのラグジュアリ
ー」を語る「本です」(本間さん)
「愛や絆を押しつけず、互いに自立
したふたりが静かに響き合う。そん
な男女の対等なパートナーシップを
象徴するような時計です」(中野さん)
立野さんは、「同じ色を異なる装
いで共有するって、素敵」と共感。
伊藤さんは、「美しい色に元気をも
たらえる」と語ってくれました。機軸
を聞き落とし、感性でつながる時計。
それは、成熟した自由な同僚性を映
し出す、穏やかな調和なのです。

👑 中野香織賞

*グランドセイコー、
「ヘリテージコレクション
STGK031」

時が移ろい、光と影が語り合う
桜の情緒に、日本の心が息づいて

「日本の美意識を凝縮する文字盤は、桜を香が溢る「桜雨」の情景をモチーフとし、光と影が移ろうたびに表情が変わる。繊細な色と質感には、四季を愛でる日本ならではの情緒が溢ります。確かな精度に絵画のような詩情が調和しており、世界中どこにいても日本を語る。誇らしい時計です」 ¥800,000 ●ケース：SS ●ケース径：30mm ●ブレスレット：SS ●自動巻き(セイコーウォッチ)



👑 盛木浩一賞

*ブシュロン、
「セルバンボエム ウォッチ」

光が重なり、確かな気品を映す
フェミニンの本質が、ここにある

「フェミニンなフォルムと装飾のバランスが絶妙です。手首にのせると、ジュエリーならではの品格と柔らかさが自然に伝わってきます。YGの輝き始めると、約3.1ctのダイヤモンドが響き合い、男性の視点から見ても「美しい」と感じる完成度。理想的なジュエリーウォッチです」 ¥8,118,000(予償) ●ケース：YG×DIA ●ケース径：18mm ●ブレスレット：YG×DIA ●クオーツ(ブシュロン)



各界のプロフェッショナルが
選出したラグジュアリーウォッチの
意欲作を発表!

審査員個人賞

多彩な分野で活躍する審査員が、
それぞれの美意識で選んだ珠玉の一本。
感性の時代を映す、個人賞が出揃いました。



👑 立野リカ賞

*ショーメ、
「ジョゼフィーヌ コレクション」

優雅なペアシェイプに宿る気品を
深いブルーの光沢が引き立てる

「胸になじむブレスレットタイプで、つけた瞬間から心がほぐれます。愛顔ジョゼフィーヌが愛したダイヤモンドのカット「ペアシェイプ」に新想を付たフォルムも優雅。深みのあるブルーダイヤルとダイヤモンドの輝きは、透らかかつ華やかで、どんなシーンにも寄り添ってくれます」 ¥1,210,000 ●ケース：SS×DIA ●ケースサイズ：縦27.3×横20.2mm ●ブレスレット：SS×DIA ●クオーツ(ショーメ)

👑 伊藤美伎季賞

*ディオール タイムピース、
「ラ デ マイ ディオール」

軽やかな煌めきを手元を照らし
日常に、上質な気分をもたらす

「同じシリーズの時計を私も持っていますが、ジュエリーのように楽しめるのが好きです。軽やかなつけ心地と「カナージュ」モチーフの繊細な輝きも魅力。マザー・オブ・パール
の光沢とダイヤモンドの煌めきが重なり、手元に優しい華やかさを添えてくれる。日常に上質な気分が広がります」 ¥1,100,000 ●ケース：YG×SS ●ケース径：25mm ●ストラップ：SS ●クオーツ(クリスチャン ディオール)

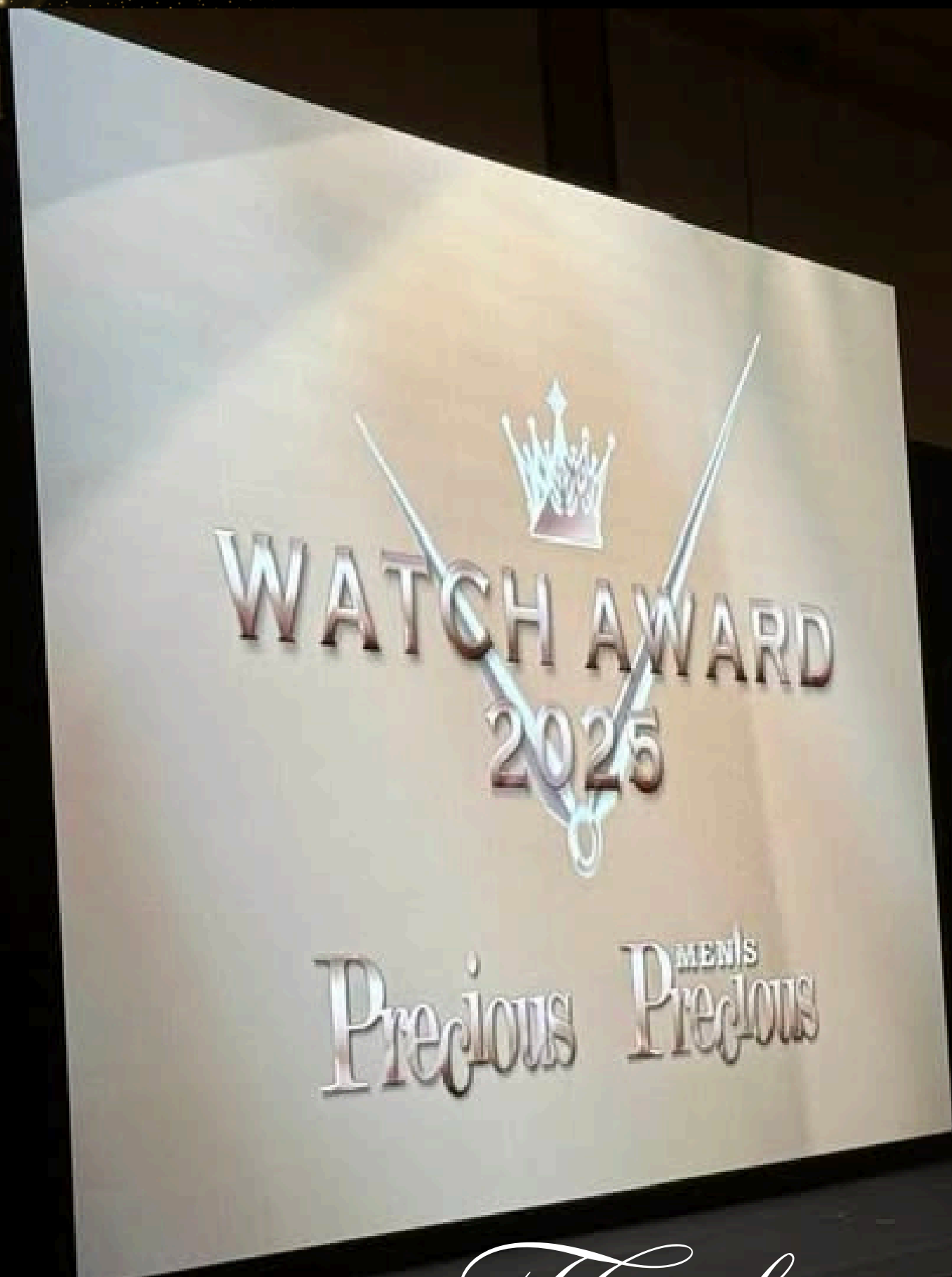
👑 本間恵子賞

*ヴァシュロン・コンスタンタン、
「トラディショナル・
ムーンフェイス」

月の満ち欠けに想いを重ねて
幻想的な光が、静かな強さを宿す

「小さなケースに、マザー・オブ・パール
の文字盤とマルタ十字をモチーフにした繊細な装飾。ムーンフェイスを冠した手巻き式モデルは薄型で、女性に似合う優雅時計です。小さく繊細なものに心惹かれる日本人の感性に響く、270周年記念モデルらしい完成度です」 ¥7,876,000 ●ケース：PG×DIA ●ケース径：30mm ●ストラップ：アリゲーター ●手巻き(ヴァシュロン・コンスタンタン)

審査員を務めさせていただきました



*Thank
You*